

第 27 号

1999年 9月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



上空から見た住居群

溝でかこった大形住居

—百間川原尾島遺跡—

岡山市内を流れる百間川は、旭川の放水路として著名で、現在も河川改修が進められています。これに伴う発掘調査では、今日までに多くの成果を上げているところです。今年度は、昨年度から引き続いて、百間川原尾島遺跡の調査を実施しています。

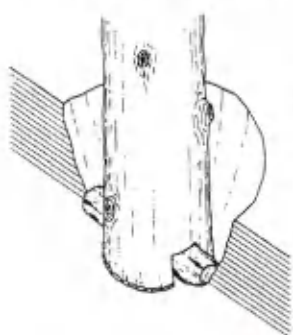
この遺跡は、主に弥生時代から室町時代にかけての集落遺跡ですが、ここでは今から約2,000

～1,700年前の弥生時代後期の集落について、いくつか注目される成果を紹介します。

調査地点は、原尾島橋下流の左岸部分で、弥生時代においては居住域と水田が広がっていた地域です。ここでは、竪穴住居8軒をはじめとして、井戸9基や土器棺墓、溝、水田など、多くの生活痕跡が見つかりました。

竪穴住居では、当遺跡最大となる直径10.4m

のものを含めて大形住居が3軒あり、これらは後期の前半から終わり頃にかけて、少しずつ場所を移動しながら建て替えられたようです。また、この内の1軒は、周囲に溝をめぐらせています。このような住居は、当遺跡でも他に4例が確認されていますが、すべて径5～6m前後の一般的な大きさのもので、大形住居では珍しいようです。この溝は、雨水の排水のために掘られたとも考えられますが、多くの住居では見られないことから、特別の住居や施設として境界を設けるなどの目的があったのかも知れません。



これについては、今後、住居の立地や他の住居との関係、出土遺物などとあわせて考える必要があるでしょう。

住居の柱構造については、「根がらみ」と呼ばれる工夫が施されている



「根がらみ」模式図と出土状態



井戸の調査風景



土壌の調査風景

ことが、いくつかの柱でわかりました。これは、屋根などの重みで柱が深く沈み込むのを防ぐもので、柱の根元を二股に切り欠き、枝や石などを差し渡すものです。柱などの木材は、腐って無くなっていましたが、入れ替わった粘土の状態からその様子が想像されます。

この他に注目されるものとしては、3基の小さな「炉」があります。これらは、後期前半のものと考えられ、互いに近接して見つかりました。最も良好なものを見ると、まず地面に細長い穴を掘り、一端に高さ21cm以上の筒状の空間をつくっています。燃料は横から入れ、この中で燃やし、上に開いた径20cm程の穴に容器を掛け、煮沸を行っていたと思われます。現在、この「炉」が何のためにつくられたかは明らかではありませんが、住居外の調理場があるとするればカマドの可能性、また、何らかの工房を想定して、金属やガラスなどを溶かすための溶解炉の可能性なども考えられます。（柴田英樹）



「炉」出土状態

弥生時代後期の高地性集落発見

—大畑遺跡—

大畑遺跡は赤磐郡熊山町佐古・岡に所在しています。発掘調査は、美作岡山道路の建設に先立って平成11年2月より実施しており、その結果、弥生時代後期後半（今から1,800～2,000年前頃）の集落跡と集団墓地の存在が明らかになりました。

遺跡は標高100～120mばかりの南北方向に延びた丘陵上に立地しており、東方には小野田川沿いに広がる田園風景が一望できます。もっとも、この平野との比高差は約80mもあり、この集落に居住した人々は、ずいぶん高所で生活していたことがうかがい知れます。

現在までの調査の成果から集落景観を見ると、住まいである竪穴住居は平面形態が円形で6本柱であるもの1軒と、隅丸方形を呈する4本柱のもの3軒を確認しました。ここからは壺・甕・高杯・鉢・器台などの土器に加えて、戦闘用の矢じりである銅鏃3点、鉄鏃1点が出土しています。これらに柱穴や壁体溝などが伴う段状遺構をあわせると、住居は少なくとも10軒程度は存在していたと推測されます。

貯蔵用の穴蔵と考えられる袋状土壙は、40基あまり検出しており、平面は円形もしくは隅丸方形を呈します。内部は上縁部よりも底面を広くすることで下部が膨らんでいます。なかには2段掘りを行うことで、上下に部屋を持つものがありました。規模は円形のものが大きく、最大で直径2.4m、深さ1.7mを測ります。遺物は少



竪穴住居の調査風景

量の土器片のほかに、打製石鏃が1点出土しています。また、内陸にある当遺跡には珍しく、カキ殻が廃棄された土壙が1基ありました。なお、この集落では掘立柱建物や高床倉庫などは確認できませんでした。

一方、集団墓地はこの丘陵の鞍部で発見され、木棺墓や土壙墓と土器棺墓などで構成されています。場所や時期的にみて、この集落の墓域であったと考えられます。

このように、水稻耕作を行うには不便な高い場所に営まれた集落を「高地性集落」と総称し、戦争に対する防御集落との解釈が一般的です。弥生時代の戦争については、考古資料のほかに紀元2世紀後半頃とされる「倭国大乱」を誌した「後漢書」や「魏志」も示唆に富みます。今後こうした背景を踏まえて、遺跡の性格を検討する必要があると思われます。（澤山孝之）



大畑遺跡を南西より望む



袋状土壙の断面状態

山形福田遺跡の発掘調査

一般県道堀坂勝北線整備事業に伴い平成10年8月に確認された本遺跡は、県北の勝田郡勝北町山形に所在します。

遺跡の地理的環境は、北に勝北町内では最大の高さを誇る山形仙（791m）を背負い、西には1.5kmで1級河川加茂川に至り、東南には日本原高原を望むことができます。

歴史的には、勝北町では弥生時代中期の遺跡が現時点では最も古く、後期も含めて20か所が知られています。古墳時代では後期の横穴式石室墳を中心に77基確認されています。中世では6か所の山城と13か所の廃寺があり、岡山県無形民俗文化財の「新野まつり」も現在まで行われています。

平成11年4月から6月まで発掘調査した結果、本遺跡は、弥生時代中期の単一時期の集落遺跡であることが判りました。

検出できた遺構は、竪穴住居・掘立柱建物・土壇など20基あまりです。



ラジコン・ヘリによる調査区全景写真



住居を復元してみました

竪穴住居は、5本の壁体溝が検出できた事から4回の建替えが行なわれていることが推定できます。最終の住居は一辺430cmの隅丸方形の平面形を持ち、支柱穴は4本あり、中央穴を有していました。北西隅の床面には調理台用の平たい河原石を据えています。また、床面が3か所も赤色に焼けていたことから火災に遭ったものと考えられます。遺物は土器片の他に石鏃・管玉・炭化した梅の種がでています。

掘立柱建物は、1間×1間のものが6棟、2間×1間が2棟あります。他に2棟まとまる可能性の高い柱穴列があり、いずれも高床倉庫ではないかと考えられます。

土壇は6基見つかっていますが、その内3基は舟の形に似ているので舟形土壇と呼びました。弥生土器を多数伴う土壇もありました。

遺構には伴いませんでしたが石包丁も出土しています。この集落の人々が稲作をしていた事が判る遺物です。
(浅倉秀昭)

藪辻山城跡の発掘調査

藪辻山城跡は、真庭郡湯原町豊栄字日地に所在し、中国山地に源を発する旭川上流域の右岸側で、北西から南東にはりだした尾根上に位置しています。平地からの比高差55mの頂部からは、南を見れば湯原町禾津方面が、北を見れば宇喜多直家の部将浮田盛重らが毛利氏側の進入を退けた「湯山城」をはじめ、北方からの進入

路が一望できる交通の要衝です。

発掘調査は、国道313号のバイパス工事に伴うもので、平成11年4月から7月まで4か月間行ないました。藪辻山城跡についての記録などは何も残されていませんが、『作陽誌』に記載されている佐山氏陣の目地堡に比定される目地城跡から北東200m程に位置しています。

今回の発掘調査により、東側に張り出ているかなり急峻な尾根先端の頂上部を長さ25m幅5～6m程平らにして平坦面（郭面）をつくり、やや幅の狭まった鞍部には敵の侵入を防ぐための堀（堀切）が2重に設けられていたことが明らかになりました。堀切はいずれも急な斜面になる部分まで切り開かれ、郭面に近い東側（堀切1）は、非常に急な傾きでV字形に掘られたいわゆる「薬研堀」ですが、西側（堀切2）は、緩やかな傾きで掘られたやや浅い堀です。規模は、最も高いところで堀切1が幅2m深さ1.2mを、堀切2が幅2.6m深さ0.6m程を測ります。なお、堀切1はほぼ直線的に、堀切2は地形に沿ってやや弧状に掘られ、堀の長さはいずれも20m程が確認されました。このほか郭面から一段下がった斜面において、「犬走り」状の面が数か所確認されていますが、いずれも規模が小さく明瞭なものではありません。

また、遺物は碗の細片と砥石片が出土したほ



藪澄山城跡全景（北側上空より）

か、鉄釘が若干認められましたが、この城が使われた時期などを明らかにするものではありませんでした。

この城の調査では、郭面上において柱穴などの遺構が検出されなかったことから、構築物を持たない街道筋の砦といった性格が考えられ、伯耆街道の押さえの城といった様相がうかがえます。（内藤善史）

上東遺跡の顔の描かれた分銅形土製品

上東遺跡は、倉敷市に位置する、主に弥生時代後期から古墳時代にかけての集落遺跡です。上東遺跡は過去に何度か調査されていますが、平成10年度の調査時に、顔の描かれた分銅形土製品が発見されました（写真）。この分銅形土製品の大きさは、半分が欠けていますが直径10cm程になります。顔の部分は、目と口にあたる箇所が線刻によって描かれ、眉毛から額にあたる部分と鼻にあたる部分は、粘土の貼り付けによって盛り上がっていたものと思われます。現在では、右側の眉と鼻の部分が欠けていて、痕しか残っていません。また裏面までヘラミガキがかけられていて、他の分銅形土製品よりも明らかに丁寧な作りです。時期は、弥生時代後期前半のものです。

この度の調査では、20個体前後の分銅形土製品が一つの土器溜まりから発見されています。そこには上東式新階段までの壺や器台が含まれ



ていますが、これより新しい時期の土器は見つかっていません。ここに紹介する分銅形土製品も、この土器溜まりから出土したものの一つです。これほど多くの分銅形土製品がいずれも半分が欠けた状態で一つの土器溜まりで発見されたことは、分銅形土製品を使った祭祀が終焉したことを示しているのかもしれませんが。

（小林利晴）

センターの活動から

1. 最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査報告会

今年で12回目を迎え、毎夏の恒例となっている「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」が、去る7月31日（土）に開催されました。

会場となった岡山県生涯学習センター大研修室には、研究者や一般市民など170名をこえる熱心な参加者が詰めかけ、満席の盛況となりました。

報告会では、平成10年度に岡山県下で実施された様々な発掘調査のうち、新聞やテレビなどに取り上げられ話題を集めた遺跡や貴重な成果をあげた調査を中心に、今回は笠岡市、津山市、総社市の協力を得て、計8件の報告が行われました。報告にあたっては、それぞれの発掘調査現場で直接に調査を担当した職員が発表を行い、調査に至った経緯や遺跡の歴史的な意義付けを含め、スライド写真を見ながら詳しい解説が行



満席となった発表会場

われました。

会場では、発表者の説明にメモを取りながら熱心に聞き入る姿がみられ、疑問点についての質疑応答もあり、参加者の関心の高さが窺われました。また会場の一画では、昨年度に刊行された発掘調査報告書を中心に、出土遺物の載った絵はがきなどの販売も行われ、多くの人で賑

わいました。

県下各地で行われている発掘調査は県主体のものばかりでなく、各市町村でも独自に数多くの調査が行われています。それぞれの発掘調査



受付のようす

で得られた成果は、現地説明会などの形で公開されていますが、一般の方々はもちろん考古学に携わっている者でも、それぞれの調査現場に赴くことはなかなか困難な状況にあります。

当センターでは、こうした報告会の開催を通して、実際の発掘現場の様子や調査の成果を、より多くの方々に知っていただきたいと思っております。また、調査研究ばかりでなく、生涯学習の参考としていただき、埋蔵文化財の保護に対する理解をより深めていただければと願っております。

なお、当日報告のあったのは、次の8遺跡です。

- | | |
|-----------------|----------|
| (1) 津島遺跡 | 県文化財センター |
| (2) 上東遺跡 | 県文化財センター |
| (3) 長福寺裏山古墳群 | 笠岡市教育委員会 |
| (4) 的場古墳群 | 津山市教育委員会 |
| (5) 久田原遺跡 | 県文化財センター |
| (6) 百間川米田・原尾島遺跡 | 県文化財センター |
| (7) 三須中須賀遺跡 | 総社市教育委員会 |
| (8) 諸上遺跡 | 総社市教育委員会 |

2. ホームページ開設

岡山県古代吉備文化財センターでは発掘調査等の最新情報をより多くの人に知っていただくことを目的にインターネット上でホームページを開設しています。ホームページでは最近の発掘調査成果を、写真をまじえてわかりやすく説明しています。また、センターの活動内容および刊行物などの情報も見ることができます。

なかでも、「特集：古代吉備を探る」のコーナーでは、時代とテーマ別に職員がそれぞれの得意な分野をわかりやすく解説しています。是非一度、岡山県古代吉備文化財センターのホームページにアクセスしてみてください。

なお、ホームページのアドレスは以下のとおりです。

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

岡山県古代吉備文化財センター

〒701-0138 岡山市西花茂1325-3
TEL: 086-293-3211
FAX: 086-293-0142

このホームページで使用している、ただし書きのない文章・写真などはすべて岡山県古代吉備文化財センター所有のものです。

無断転用は禁じます。

ようこそ文化財センターへ! センターから発掘最新情報をお伝えしていきます



山形稲田遺跡で堅穴住居復元中...
わくは前後をクリックしてください

メニュー

センター紹介	設立動向から所内の案内
組織	今年度の仕事の分擔
NEW平成11年度の発掘調査	今年度実施予定の調査概要
平成10年度の発掘調査	昨年度実施の調査概要
刊行物のご案内	在庫図書を紹介・販売
特集 古代吉備を探る	新連載版の一手! 必見

3. 最近刊行された報告書

当文化財センターでは、昨年度末に新たに10冊の報告書を刊行いたしました。縄文時代から近世の遺跡まで、話題になった遺跡や遺物も多く、その内容は多岐にわたっています。

これらの報告書は、県総合文化センターや岡山市立中央図書館あるいは県下各市町村教育委員会にあります。また、各都道府県の関係機関などにも配布しており、学術研究や埋蔵文化財の普及・啓発のために活用されています。

内容など詳細については当センターへお問い合わせください。

- ①『旦山遺跡・惣台遺跡・野辺張遺跡・先旦山遺跡・旦山古墳群・水神ヶ峪遺跡・奥田古墳』岡山県北流通センター建設に伴う発掘調査
- ②『津島遺跡1』岡山県総合グラウンド第一次確認調査
- ③『加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡』山陽自動車道建設に伴う発掘調査17
- ④『原尾島遺跡(藤原光町3丁目地区)』雇用促進住宅建替えに伴う発掘調査
- ⑤『田益田中(笹ヶ瀬川調整池)遺跡』笹ヶ瀬川調整池建設に伴う発掘調査
- ⑥『田益田中(国立岡山病院)遺跡』国立岡山病院建設に伴う発掘調査
- ⑦『津寺三本木遺跡・津寺一軒屋遺跡』主要地方道箕島高松線改良工事に伴う発掘調査1
- ⑧『立田遺跡2・高松原古才遺跡2・加茂政所遺跡2・津寺遺跡6』立田排水機場建設等に伴う発掘調査
- ⑨『大成山たたら遺跡群』三室川ダム建設に伴う発掘調査
- ⑩『津島遺跡』岡山家庭裁判所所長宿舎建て替えに伴う発掘調査

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (平成11年度)

<組織>



<職員>

所長	長	葛原 克人
一次長	長	大村 俊臣
総務課	長	小倉 昇
総務係	課長補佐(係長)	安西 正則
	主査	山本 恭輔
	主事	志摩 尚史・黒住 尚良 高島 久義・山崎 一人 福島 和香子
調査第一課	課長	高畑 知功
第一係	課長補佐(係長)	中野 雅美
	文化財保護主幹	平井 勝・島崎 東
	文化財保護主査	宇垣 匡雅(岡山市へ派遣)
	主事	福本 明(倉敷市から研修)

文化財保護主任	扇崎 由(岡山市から派遣)	
	大橋 雅也(文化課本務)	
文化財保護主事	渡邊 恵里子・金田 善敬(文化課兼務)	
	岡本 泰典・佐藤 寛介	
	米田 克彦	
第二係	課長補佐(係長)	下澤 公明
	文化財保護主幹	井上 弘・岡田 博
	文化財保護主査	三船 幹也
	文化財保護主任	築地 由行・亀山 行雄
	文化財保護主事	物部 茂樹・小林 利晴
	主事	重根 弘和
調査第二課	課長	伊藤 晃
第一係	課長補佐(係長)	江見 正己
	文化財保護主幹	杉山 光紀・平井 泰男
	文化財保護主査	内田 博雄
	文化財保護主事	奥野 光廣・根木 智宏
	主事	小嶋 善邦
	主事	梶田 亜友美
第二係	課長補佐(係長)	福田 正継
	文化財保護主幹	岡本 寛久
	文化財保護主査	橋田 俊郎
	文化財保護主任	弘田 和司・常安 伸
	文化財保護主事	尾原 啓介・砂 泰将
	主事	時實 奈歩・西垣 彰博
調査第三課	課長	柳瀬 昭彦
第一係	課長補佐(係長)	山磨 康平
	文化財保護主査	土師 忠満・大森 充宏
	文化財保護主任	高田 恭一郎・柴田 英樹
	文化財保護主事	杉山 一雄
	主事	松尾 佳子・梶藤 智之
第二係	課長補佐(係長)	二宮 治夫
	文化財保護主任	澤山 孝之
	文化財保護主事	室山 博文・尾上 元規
	主事	安倉 清博・下垣 豪
第三係	課長補佐(係長)	浅倉 秀昭
	文化財保護主幹	内藤 善史・光永 真一
	文化財保護主事	氏平 昭則
	主事	中島 和哉

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136

岡山市西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211

FAX (086) 293-0142

http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/

kodaik.htm

●交通案内

- ・ J R 山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・ J R 吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・ J R 岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分

開館時間 AM9:00~PM5:00

休館日 土曜日・日曜日および祝日、年末・年始

